

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年6月14日(火)

《憎しみ、悔しさは、愛に変えましょう -自分が救われるため、自分が癒されるために-》

今日は、ある司祭が書いた一人の奥さんの実話を紹介させていただきます。私は、その話しを読んで感動しました。ですから、皆様にも良い助けになるのではないかと思います。

ある奥さんが離婚をしました。離婚して数年後、別れた夫がガンになり、6か月くらいしか生きられないという話を聞きました。そこで彼女は、離婚した夫のところへ行き、看病を始めます。初めのうち、夫は以前と同じように大きい声で悪口や暴言を口にし、腹を立て、「なぜ来たのか」と言いました。優しい言葉の一つもかけてはくれませんでした。しかし6か月が過ぎた頃、彼女の手を握って、泣きながら「本当に私が悪かった。赦してくれ。」と言いながら息を引き取ったそうです。

その奥さんは、子どもの頃、家がとても貧しくて小学校しか卒業しませんでした。勉強もできなかったそうです。そして大人になると、夫のもとへ嫁ぎました。嫁いだ家も貧しい家庭でした。夫は、酔っぱらっては暴力を振り、いろいろなことで彼女を苦しめました。更に夫は長男だったので、彼女は自分にできる仕事をしながら、夫の弟や妹たちの世話もしました。しかし、自分に子どもが生まれて大きくなると、彼女は「このような環境では、子どもたちを善い具合に育てられないだろう。」と考えて離婚を決心します。そのような時に、姑が病気で倒れました。そこで彼女は7年間、我慢をして姑の世話をしました。大小便の世話までして、姑が亡くなった後に、離婚をしました。

彼女の胸には、何十年間も痛み、悔しさ、苦痛がありました。しかし、夫が涙を流しながら「悪かった。赦してくれ。」と言う言葉を聞いた途端に、その全てがいったんになくなる体験が出来たと告白しています。

その話を聞いた司祭も心を打たれて、文章に書きとめたようです。

私たちは、どのように生きても、やはり憎しみや悔しさを感じながら生きなければなりません。

しかし、人生が終わってもこれを乗り越えれば約束された国が待っていると信じられれば、どうしても受け入れなければならないいろいろな痛みや憎しみを、今日の福音(マタイ5:43-48)のように、愛に変えられるのでしょうか。

先ほどお話しした奥さんは、夫の言葉を聞いた途端に癒されました。そして、憎しみ、悔しさ、苦痛が、愛に変わるのを体験したのです。だからその後、「亡くなった夫のために祈りのうちに過ごしています。」という告白が出来たのでしょうか。

私たちの生活の中にもいろいろな傷を与える関わりがあります。その時、相手のためではなく、自分のために、自分が救われるため、自分が癒されるために、今感じている否定的な感情を肯定的な感情に変えなければならないのです。それが私たちの宿題かもしれません。

皆様、憎しみは何の役にも立ちません。逆に自分を破壊してしまいます。『悪魔の罠』と言われるく

らい私たちにとって望ましくないものです。ですから、今日の福音のように、心を悩ませる否定的な何かの思いがあるのならば、それを癒す力に変化させようと努力することが必要なのです。それをいつも意識しましょう。

今日の福音の最後に、イエス様が、「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」とおっしゃいましたね。完全な者になる方法はただ一つです。それは、愛に基づくことです。イエス様が、「御父が完全である」と自信を持って話せたのは、“御父が愛そのものである”ことを体験してきたからです。

今日のイエス様のみ言葉は、“本当に完全なことを求めるのならば、それは愛の中で探しなさい”という意味ではないかと考えてみました。

ありがとうございました。